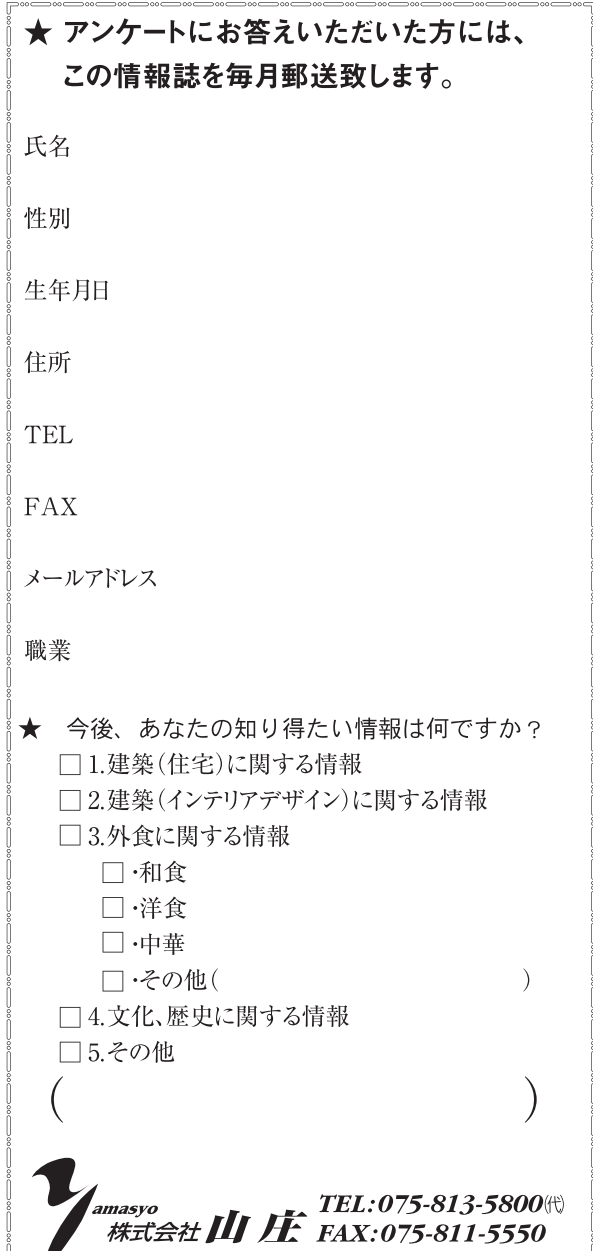
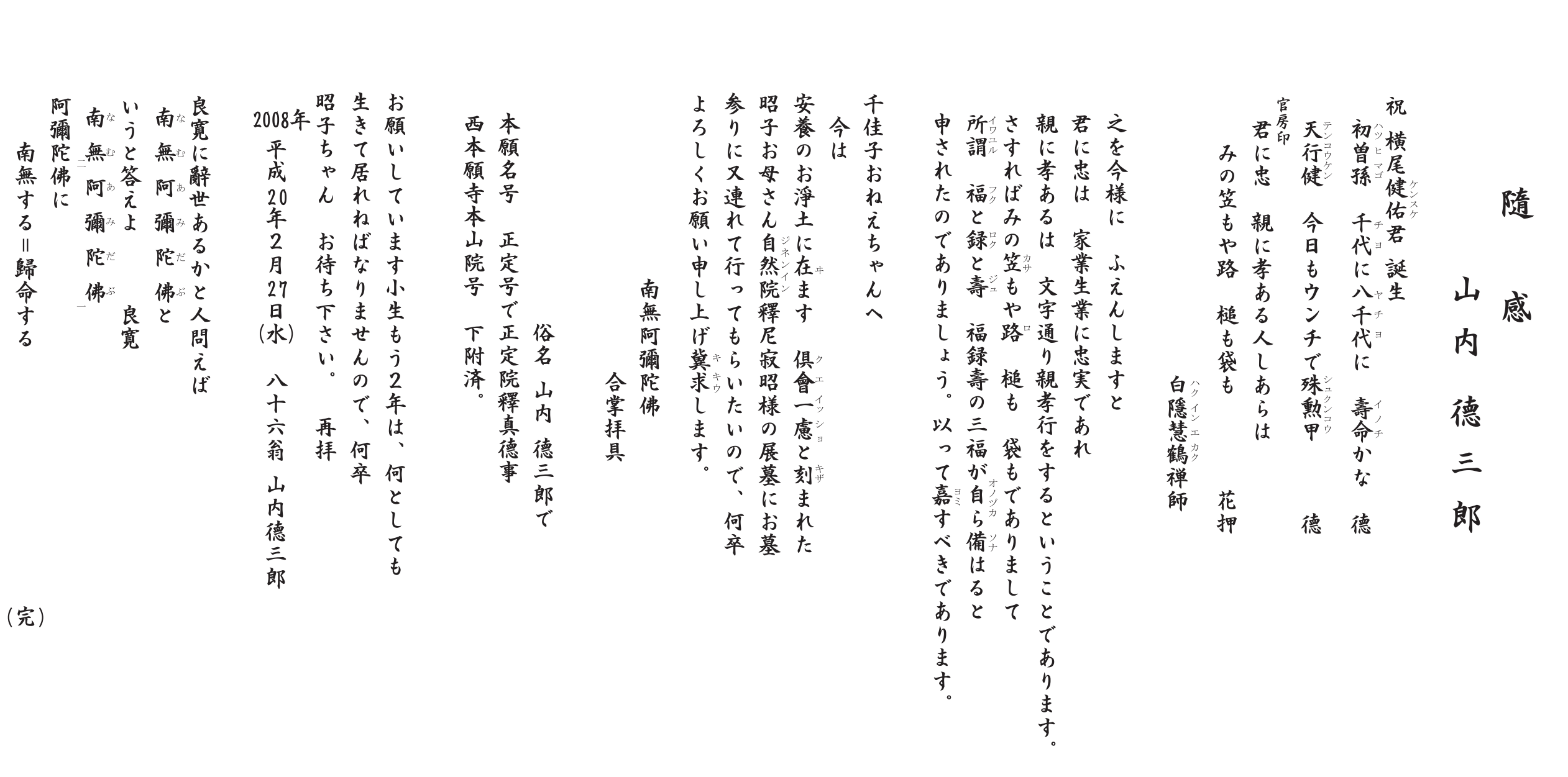
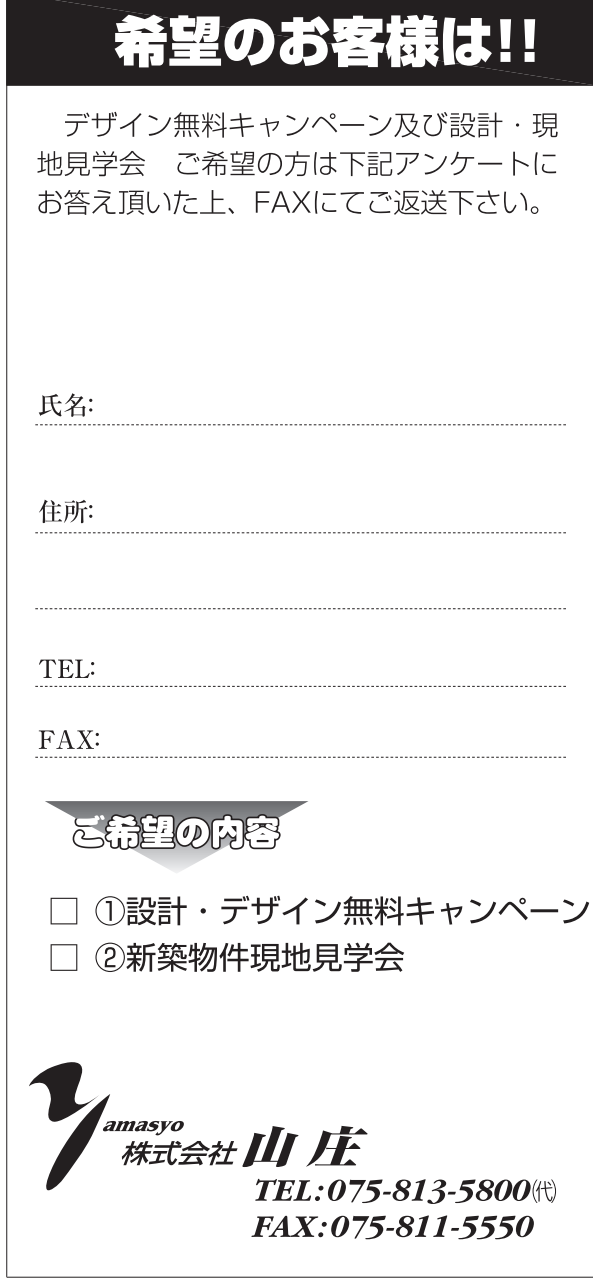
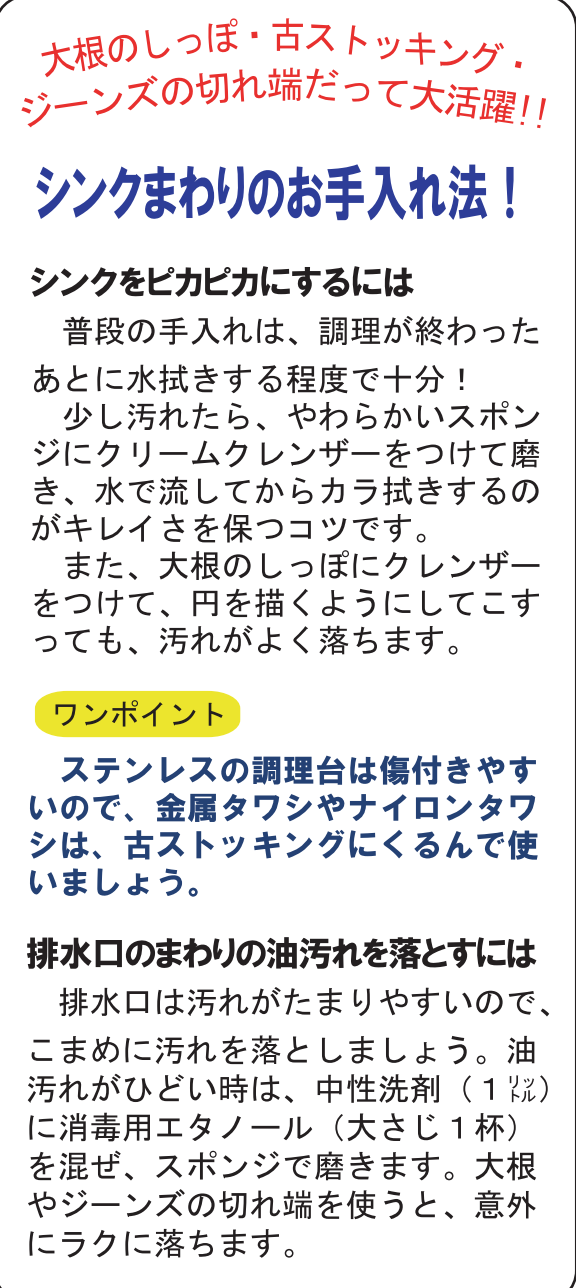
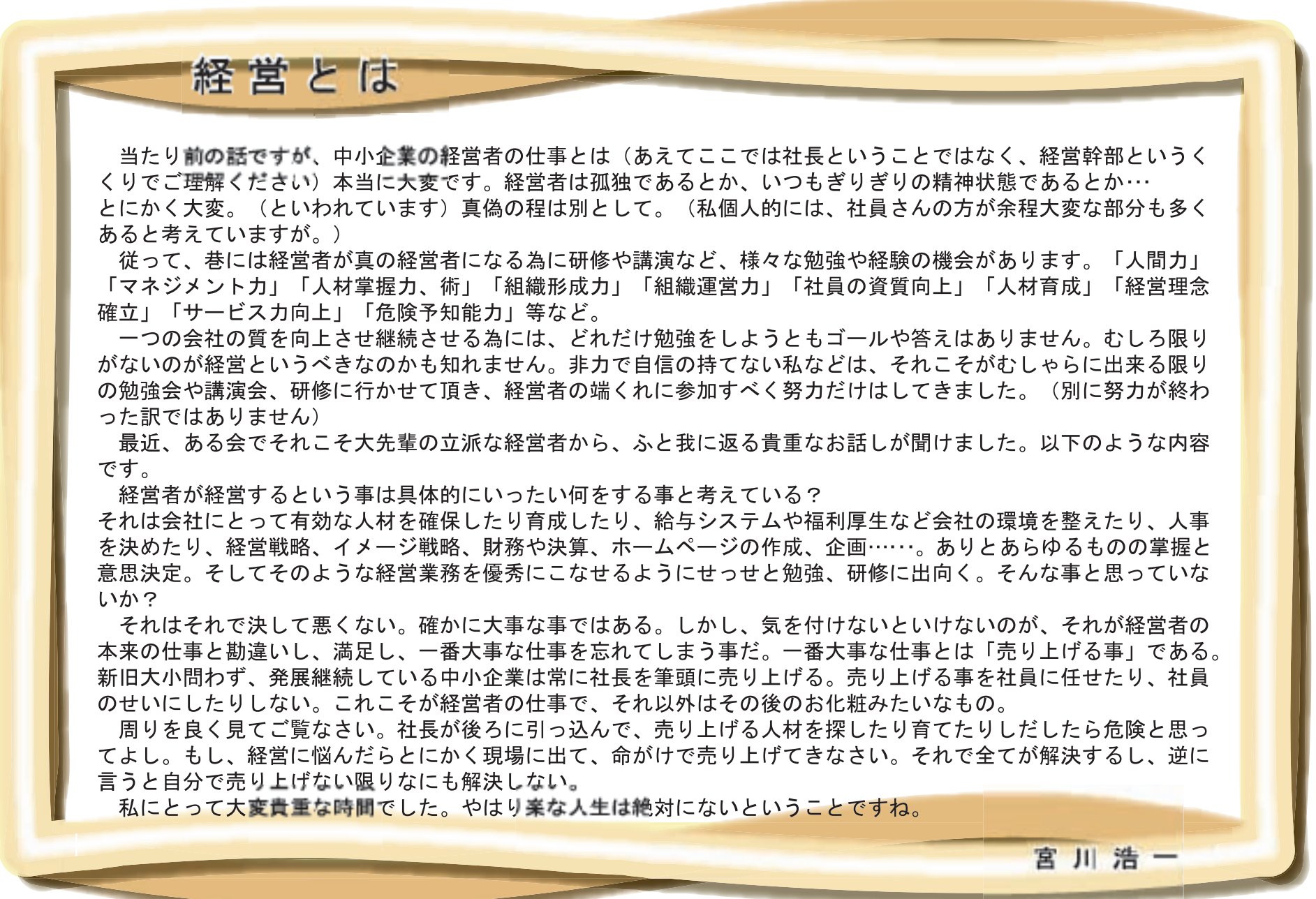




雑感

山内 庄一郎

嵐の続くなか、光源氏の夢枕に故桐壺院が現れ、須磨を去るよう仰せになる。翌朝、源氏が目を覚ますと渚に舟が寄せられ明石入道が待っていた。彼は京の官を辞し播磨守となった後、仏の道に入ったという経歴の持ち主で、ひとり娘を大事に育てていた。光源氏はその舟に乗り入道の館へ。この後源氏は入道の愛娘明石の君と契り、さらに光源氏に帰京の宣旨が下るという源氏物語「明石」の段。前回に引き続きそのさわりの部分を原文／現代京ことばで対比してみます。尚、原文は新潮日本古典集成より、現代京ことばは「京ことばで綴る源氏物語」より。

[原文]
かくしつつ世は尽きぬべきにや、とおぼさるに、そのまたの日の暁より、風いみじう吹き、潮高う満ちて、波の音荒きこと、巖も山も残るまじきけしきなり。
(読み) 巖＝いはほ

40代からの子育て

山内 早苗

「やってもうたー。」ここ十日程、音沙汰のない息子が気がかりで電話をしてはいいたが、私も雑用に追われやっと通じた電話の向こうで、元氣なく息子が嘆いている。「えーどうしたん？」と私。「もう最低や、予想外もええとこや。」ただただ嘆く息子にピンときて「もしかして、子供できたん？」恐る恐る聞いてみる。「なんでやねん。」と息子。「ほな、何？悪い病気にでもなったん？」と私。「違う。試験に落ちたんや。俺一人だけ卒論あかんかったんや。」消え入りそうな声で息子が答えた。「えー。」驚く私に気を取り直したのか、「兎に角今、学校に連絡とって先生に会う積もりやから。」早々に電話を切り主人の帰りを待った。近頃午前様が多い主人が、1時を回りやっとな帰ってきた。「もう徳ちゃんの仕送りを止めるとか続けるとかの問題と違うわ。」手短に主人の怒りを最小限に抑えようと、早口で事の成り行きを話し終えた私に「何考えとんねん。ほんまにー。俺とこに自分で電話させろ。」と怒りと眠気や酔いも究極に達した主人が声を荒げて言う。数日後、やっと連絡が取れて担当の教授

(現代京ことば)
このままでは世の中は尽きてしまうのやないかと思うといやすと、その次の日の暁から、風が激しう吹き、高潮が寄せてきて、浪の音の荒々しさは、巖や山も呑みこんでしまいそうな勢いどす。

[原文]
雷の鳴りひらめくさま、さらに言はむかたなくて、落ちかかりぬとおぼゆるに、ある限りさかしき人なし。
(読み) 雷＝かみ
(現代京ことば)
雷の鳴りとどろく様は、何ともかとも言いようものうて、「おちてきた」と思うたら、そこに居るもんは誰も分別を失うてます。

[原文]
君は御心をしづめて、何ばかりのあやまちにてか、この渚に命をば極めむと、強うおぼしなせど、いとの騒がしければ、色々の幣帛ささげさせたまひて、「住吉の神、近き境をしづめ守りたまふ。まことに迹を垂れたまふ神ならば、助けたまへ」と、多くの大願を立てたまふ。
(読み) 幣帛＝みてぐら 迹＝あと 大願＝だいぐあん

(現代京ことば)
君は、お心を静めて、「どれ程の過ちがあったというても、この渚で命を終わるなど、あるはずもない」と、気丈にお考

と話ができ今後の展望も見えたので、4月の追試に向けて必死で頑張るからと息子から電話が来た。7人いるクラスメイトは皆、いま息子が得ようとするMA資格を最低でも1つから2つ持っている。7人中男性は、息子と妻帯者のS氏のみで、S氏に至っては4つ目のMA習得になるらしい。入学当初は皆がすごく出来るので、自分一人が場違いな所に来てしまったと怖気づいていた息子が、1年近くが過ぎ卒論の話になると、「楽勝や。」とやけに調子が良かった。中学・高校の国家試験に大学入試に卒業試験、今まで多くの試験を抑える度に「あかんかもしれん。」といつも自信無げだっただけに、まさか落ちるとは私も夢にも思わなかった。ただ今まで自分の専門分野以外の話になると、それは専門外だからと一切答えて貰えず嫌な先生だと極力接触を避けてきた担当の教授が、今回の事で個人的に何回かお会いして、色々と指導をして貰うと本当はとても正直で言葉足らずとお互いの理解不足で、意思の疎通が生れていた事が分かり勉強になったし、何よりストレートに通っていたら、自分の筆記力もこの程度でいいんだと褒めていたと思うので、いい勉強になった。と夜の電話でしみじみと息子が自分にも言い聞かす様に語っていた。後は4月の追試に向けて頑張るしかない、やっとな一件落着の日々に今度は娘の問題が出てきた。金曜日、いつも通り北大路駅で1時間近く待っているのに娘が来ない。学校まで行くとな娘の靴がまだ下駄箱に入っている。不思議に思っているところに担任から電話が

えやすけど、辺りが騒がしおすので、いろいろの弊帛をお供えやして、「この辺りの一体を鎮護まします住吉の神様よ。まことに現世に跡をお垂れやす神でしたら、どうぞ助けとくれやす」と、多くの大願をおたてやす。

[原文]
おのおの、みづからの命をばさるものにて、かかる御身のまたなき例に沈みたまひぬべきことのいみじう悲しきに、心を起こして、すこしものおぼゆる限りは、身に代へてこの御身一つを救ひたてまつらむと、とよみて、諸声に仏神を念じたてまつる。
(読み) 諸声＝もろこえ 仏神＝ほとけかみ

(現代京ことば)
めいめいも、自分の命はそれとして、このようなお方が、またとないような事で沈んでおしまいやすのが、ほんまに悲しおすさかい、心をふるい起こして、少しでも物のわかる者はみんな我が身にかえても、この御身一つをお救い申し上げようと、声をあげて、いっせいに仏神を念じ申します。

[原文]
「帝王の深き宮に養はれたまひて、いろいろの楽しみにおごりたまひしかど、深き御うつくしみ、大八洲にあまねく、沈める輩をこそ多く浮かべたまひしか。
(読み) 大八洲＝おほやしま 輩＝ともがら

あった。近頃2年生の女子トイレに予備に置いてあるトイレトペーパーが、そのまま便器に投げ込まれた事件があり、投げ込んだ女の子が自分がしたけれど、4回のうちの最初の1回が娘だと友達に話したらしく、娘の名前が出てきたので事情を聞いていると言う事らしい。その後の先生とのやり取りで娘がやっていない事はわかっているけれど、どうしてもその女の子が娘だと言い張るので、月曜日にその女の子と娘と一緒に話を聞かせて欲しいとの事。先生からは「Uちゃんとトイレで会ったの？」と言う風な聞き方をされたらしく、名簿が近くいつも班活動が一緒なので、会ったと聞かれたらいいつもり、という感じで娘の答え方も曖昧になっており、出来れば月曜日にはっきりと答えて欲しいという事であった。娘から「環境問題をしているのにトイレに掘り込むなんてあかんやろ。」と話は聞いていたが、まさかこんな形で関わるとは思わなかった。その夜ははっきりと事情を話さないとな娘も分かり辛いと思い「トイレトペーパーやけど、Uちゃんがしはったんやて、ほんで1回目は彩やって言っただはるけどどう思う？」と聞くと、「えーじゃみんな私がやったって思ってはるの……でも大丈夫みんなUちゃんやて分かったはるもん。」意外な言葉が返ってきた。この問題が出てから1週間余り、すでに週の後半では、やった人は分かっているのて先生のところに言ってきてください。という風な会話がクラスで成されたらしく、子供達の間では目撃した子供もいたらしく、

(現代京ことば)
「帝王のいます九重の宮殿にお育ち遊ばし、いろいろの快樂を恣におしやしたとはいえ、深い御うつくしみは大八洲にあまねき、沈んでいるともがらを大勢お救い遊ばしました。

[原文]
今、何の報いにか、こころ横様なる波風にはおぼほれたまはむ。天地ことわりたまへ。罪なくて罪にあたり、官、位を取られ、家を離れ、境を去りて、明け暮れ安き空なく嘆きたまふに、かく悲しき目をさへ見、命尽きなむとするは、前の世の報いか、この世の犯しかと、神仏明らかにましまさば、この愁へやすめたまへと、御社のかたに向きて、様々の願を立てたまふ。
(読み) 横様＝よこさま 官＝つかさ 御社＝みやしろ

(現代京ことば)
いま、何の報いでこんなよこしまな波風に溺れておいやすのどすやろか。天地の神様、理非を判断しとうくれやす」「罪が無うて罪に当たり、官や位をとられ、家を離れ故郷を去って、明け暮れ御心の安まる時とてものう、嘆いといやす上に、こうした辛い目にさえ遭い、命が尽きようとしといやすというのは、前世の報いか、それともこの世で犯した罪のせいか、神仏が、確かにおいやすのなら、この憂き目を救うとくれやす」と、御社の方向に向うて、さまざまの願をおたてやす。

話題になっていたらしい。Uちゃん自身も逃げられないと思ったのか、先生がこの話をされている時に1年生で同じクラスだったNちゃんに、私がしたけれど1回目は彩ちゃんだと、娘のせりふまで織り交ぜて伝えたらしく、聞かされたNちゃんは親にも先生にも言わないでと口止めされ、余計に怖くなって帰宅後直に娘の事も織り交ぜて話したらしく、Nちゃんのお母さんからの電話で、娘の名前が出たので今回の運びになった、という経過も先生からお聞きした。今までただ楽しく学校に通っていただけに私もショックを受けた。土曜・日曜と元氣だった娘が月曜日の朝主人と出掛ける間際になって泣き出した。「彩、ちゃんと言えるかなー。」一緒について行こうか？と聞く私に、「いい、一人で行ける。」と泣きながらもはっきりと答えたので、『本当の事を言ったらいいだけやしな。』と送り出す。主人が北大路まで送り、友達と一緒にいつも通り行ったという事。やはり気になったので先生に電話をして、自分の娘がうそを言っているか、本当の事を言っているかも分らない様な親子関係ではないし、目を見たら分るので口が立つ方では無いから、6時間目まで持ち越さずに早く解決して欲しい。とお伝えした。下校時にお迎えに行くと入れ違いで娘は帰ったらしく、先生とお会いして話をお聞きした。1時間目に娘とUちゃんを呼び先生方が話を聞かれた所、娘がはっきりとやっていないし、トイレでUちゃんとも会っていないと言ったので、娘は授業に戻りその後Uちゃんがうそを付いたと話したので、

[原文]
また海の中の龍王、よろづの神たちに願を立てさせたまふに、いよいよ鳴りとどろきて、おはしますに続きたる廊に落ちかかりぬ。炎燃えあがりて廊は焼けぬ。心魂なくて、ある限りまどふ。後ろのかたなる大炊殿とおぼしき屋に移したてまつりて、上下となく立ち込みて、いとらうがわしく泣きとよむ声、雷にも劣らず。空は墨をすりたるやうにて、日も暮れにけり。
(読み) 廊＝らう 心魂＝こころだましひ 大炊殿＝おほひとの 屋＝や 上下＝かみしも 雷＝いかづち

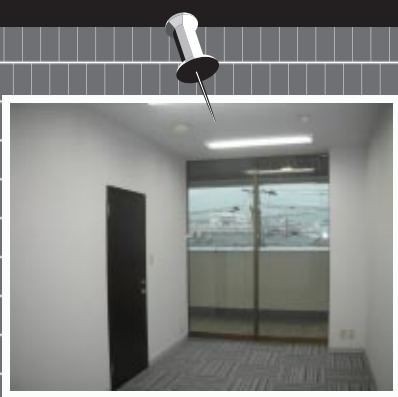
(現代京ことば)
また、海の中の竜王や、万の神たちに願をおたてやすと、ますます雷が鳴りひびいて、おいでやす処につづいている廊におちたのどした。炎が燃え上がり、廊は焼けてしまうたのどす。心も魂も消え失せて、誰もかれもが迷うてます。後の方の大炊殿と思われる建物へお座をお移し申し上げ、上下の区別ものう立て混んで、泣き叫ぶ声は雷にも劣らしまへん。空は、墨をすったようどして、日も暮れてしまうたのどした。

Uちゃんのお母さんと共に校長先生と話し合われたとお聞きました。5・6時間目の授業も急遽HRに変更になり、Uちゃんもうそを付いた事を謝ったり、クラスでも友達同士で傷つけあい止めようと話し合いが持たれ、この一件は幕を閉じた。ただ親しかったUちゃんがどうして自分の名前をかたったのか？娘の心には色々な思いが交差している。毎日先生に日記を書き、先生もUちゃんと三人で話し合わせてくれるかと娘に問われて、「彩ちゃんが浮かんだから。」と言うUちゃんの答えで、娘はこれでよくわかったのでこの話は終わりにします。と日記の最終ページを締め括っている。先日娘の仲良しのKちゃんのお母さんから、今回の件で1年生からUちゃんと同じクラスだったKちゃんは、1年生の終わりにも同じ様な事をしたUちゃんが、今度は大の仲良しの娘の名前を語った事で、突然何もしていないのにこんな風に巻き込まれてしまう事があるんだと、すごくショックを受けていたと聞いた。娘は語らない事で乗り越えようとしているのかも知れない。先日一緒にドラマを見ていたら、やさしい姉が母違いの意地悪な妹にだまされる、という場面があった。「この人どうしはったん？」と聞く娘に、「妹にだまされはったんやて。」と言うとぼつんと言、「この妹Uちゃんみたいやなー。」と答えた。娘が一人でトンネルを抜ける日がもうそこまで来ている気がする。

『最近のお引渡し現場』



K様店舗 新装工事
場所：東京目黒区
3月引渡し



K様事務所 新装工事
場所：西宮市